



山ぼうし

— 友愛・協調・責任 —

山ぼうしは「立志の樹」といわれ正門脇の「山ぼうし小庭園」には『花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし』の碑(初代PTA会長の盛合聰氏揮毫)がある。

宮古工業高等学校 校報 第15号 2016.2.29

好きこそものの上手

校長 及川晃貴

好きなことをそのまま仕事にできたら人生は幸福だという人がいます。トーク番組などで「好きでやり続けてきたら、そのまま仕事になっていた」と語る人もいます。音楽バンドのメンバーやスポーツ選手に多いような気がしますが、本当に好きかどうかだけで仕事に就けるのでしょうか。

本校では先日、厚生労働省キャリア・コンサルタントのクロイワ正一氏を講師に迎え、就職支援講座「なぜ働くのか?」を開催しました。クロイワ先生は生徒たちに、仕事とは「自分を使って人を幸せにすること」であり、「理想のキャリア＝興味+能力」であるという話しをしました。

つまり、「好きなこと(興味)」だとやってみてうれしいから長続きし、その分、腕も磨かれるので「できること(能力)」の幅が広がっていくのであると。興味を活かした仕事に就き、「興味を磨き続けること(努力)」で能力を高めていけば、やりがいも生まれるし、相応の地位や報酬も得られるであろうと。

実は、私の願いもここにつながっています。

生徒の皆さんには、興味のある活動にとことん打ち込み、若者のエネルギーを注ぎ込んでほしいです。本校は工業高校として、ものづくりに関わる技術を学びます。資格や検定にもチャレンジします。部活動は15部あります。「もしかして好きかも?」というきっかけもあります。

時に、好きで始めたことであっても、途中で伸び悩み、思い迷うこともあります(私も経験しました)。でも、そうなった時こそ初心に戻り、はじめに描いた「目指す姿」「なりたい自分」を思い起こして奮起してほしいと思います。再挑戦も含め、努力をし続けることで自分の能力を高めれば、人の役に立ち人の幸せにつながる場面に立ち会えます。日々の前向きな取組が、自分を知り自分を活かすことにつながることを信じ、活動に邁進してください。

* * *

☆3月の主な行事☆

- 1(火) 卒業式
- 9(水) 県立高等学校入学者選抜学力検査
- 16(水) 合格発表
- 22(火) 終業式・離任式
- 23(水)~4.5(火) 学年末・学年始休業
- 4.6(水) 始業式・新任式
- 4.7(木) 入学式

○ジュニアマイスター顕彰

ジュニアマイスター(JM)は工業系学科で学ぶ生徒が身につけた資格や検定試験の結果、各種コンクールの成績等を得点に換算し、合計点数によってゴールドとシルバーに認定する顕彰制度で、本校では31名がJMに認定されました。

ゴールド

E3 一関 優希 E3 長洞 利林

シルバー

M3 秋田 裕貴	M3 飯岡 晃一	M3 遠藤 京介
M3 大下 寿磨	M3 桂 敬太	M3 木村 拓
M3 黒澤 孝海	M3 駒井 亮	M3 佐々木 渉
M3 佐々木 大	M3 佐々木優真	M3 佐々木 竜
M3 城内 優介	M3 舘洞 光	M3 中島 良
M3 中村紘一郎	M3 芳賀 瑛希	M3 藤原 亮太
M3 古舘 佳典	M3 三浦 悠暉	M3 山口 冬真
M3 山本 翔太	E3 腰巡 友太	E3 佐々木翔太郎
E3 佐々木大河	E3 佐竹 大快	E3 中嶋 克
E3 福士 達也	F3 長澤 和也	

○タイ国中等学校訪問交流

津波や洪水の被害を受けた日本とタイ国の高校・中等学校の交流活動のため、佐々木大君(M3)と舘下仁君(M2)の2名が、1月3日(日)~8(金)にタイ王国バンコク市の2校の中等学校を訪問し、津波模型班の取組などを“英語”で紹介しました。



英語でプレゼンテーション

○全国選抜卓球大会へ

卓球部

1月8日(金)~9(土)に奥州市総合体育館で開かれた全国高等学校選抜卓球大会(個人戦)岩手県

予選で卓球部の桂駿介君(機械科1年)が見事優勝を果たし、3月末に福島県で開催される全国選抜大会への出場を決めました。全国大会でも頂点を目指し頑張ってくれることを期待します。



○東北大会で最優秀賞

放送委員会

第19回東北高等学校放送コンテストが2月6日(土)～7日(日)に秋田県民会館で開かれ、テレビキャンペーン部門で最優秀賞を受賞しました。



口 平成28年2月6日(土)・7日(日)
 場 秋田県民会館
 主催 東北地区高等学校文化連盟
 協賛 秋田県教育委員会・秋田県高等学校文化連盟
 協賛 NHK秋田放送局・ABC秋田放送局・秋田魁新報社

『宮古のびっくりマーク!』の紹介

宮古周辺の「びっくりマーク」に見えるスポットを特集

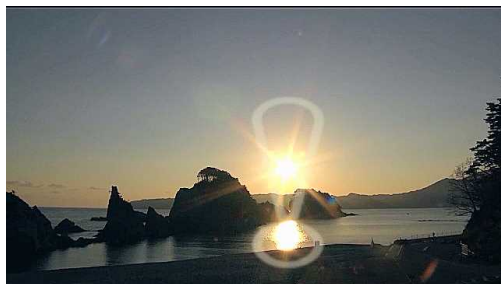
海に映える朝日に



早池峰山上空の雲に



浄土ヶ浜の風景に



宮古の市街地に



宮古湾と宮古工業で



若手県立宮古工業高校はここ

○第2回学校評議員会の報告

2月7日(月)に第2回学校評議員会を開催しました。今回は学校評価結果を基に、今後の改善の方向性について助言をいただきました。

<主な意見>

- *「子育てと教育を考える首長の会 in 宮古」で津波模型の実演を初めて見たが、生徒の説明が立派で、この取組は地域の大切な財産である。中学校での復興教育の推進に向け、工業高校との連携を具体的に進めていきたい。
- *生徒の資格取得は取り組む目的に明確にすることが大切である。その上でよりハイレベルの資格に挑戦してほしい。
- *専門技術の習得はもちろん、主体性を磨くなど工業高校のメリットを生かす勉強を積み重ねることで、入社後は他の社員に率先して積極的に働ける力を付けてほしい。
- *主体的に行動することは会社において必要なことであり、高校生のうちから目標設定の仕方や取組への動機付けについて、自ら実践できるよう指導していただきたい。
- *会社では「仕事に対する思い」が求められる。宮古にはコネクタ産業で世界一を目指すなどの企業が多数ある。期待の持てる地域であり、地元就職の好機である。
- *関東方面に就職後、Uターンをしてきた者について、戻ってくる原因を明らかにし、受け皿をどうしたらよいかなどについて情報共有できる場が必要である。
- *道路の復興が進み、地域外に出やすくなった分、逆にもっと人が来るようにする仕掛けづくりが課題となってくる。
- *学校評価アンケートでは保護者のPTA参加率が低いとある。学校に来ることで活動の様子も分かるので、保護者がより多く来校できる取組や工夫をお願いします。
- *どこの学校の生徒かは不明だが、登下校時に自転車に乗りながらスマートフォンを操作している。大変危険であり注意喚起が必要である。

なお、学校評議員会の報告と、学校評価（自己評価）の「結果」及び「分析と改善方策」については、教職員、生徒、保護者の別に、本校ホームページに掲載します。

編集後記

東日本大震災津波からまもなく丸5年を迎えます。本校は津波による浸水被害を受け、国内外からの支援によって復活し、従前と同様、ものづくり教育を中心に教育活動を展開しています。

このような背景もあり、ここにきて津波模型などを用いた高校生たちによる防災授業の取組に対し、新聞・テレビ等の取材が増えています。3月8日(火)には、日本テレビ「ニュース ZERO」で生徒の活動の様子が放送される予定です。

(及川)